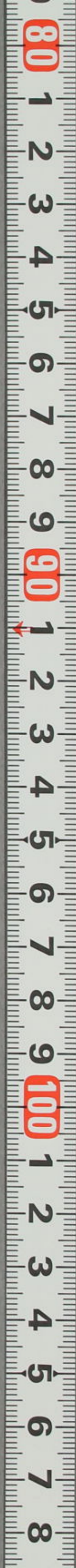


玉搦笥

六

郭翁子文

特別
~13
4370
6



并藤を畫し一り。紫つを法水院と名け。中二
湖音洞才云を宛竟頂といふ。其の額の後少松院の宸翰
ありと云。此園の内外もくく金湯を築きて神あり
この中へせふ金園と稱せり。園のまはれなす大さなる池
をりせ泉水をたぐふ泉水のなりおの九山八海を云し。
名くの名あるををてて。其の絶景いふとありなり。凡
此園へ八境とて八のの名あり。法水院湖音洞宛竟
頂鏡湖池山石下水龍門瀑銀河泉安氏瀑是なり。其の
外臺榭文殿あげてわがへが。同十の年三月ふこの地
へ後少松院の御筆を借り。あり。そのよりその御筆
をり。別子文殿を新らし。とあり。いふ人へより

ありあり。おの心花奇をあらた。ましく風景を鑑ひ
あり。其の造營切造りり。お軍ひのます。まが
點検し。ゆい。及び之寢殿小海り。氣力勞進ぬと
あり。のいぬ。ま。おアさん。い。記
し。ま。お軍お。ま。入。り。て。家。を
す。の。流。る。ら。ん。や。て。見。ゆ。ふ。く。な。ま。さ。の。夢。や。と
て。ま。衣。打。く。ぎ。附。し。ゆ。志。ど。り。あり。て。ま。い。ま。の
ま。ふ。す。び。新。れ。お。軍。大。小。あ。や。し。の。大。お。り。海
前。ら。り。く。お。宿。の。人。と。ま。し。た。あ。く。小。庵。後。の。ま。い。二
三人をひの君あり合られ大臺の御供ふす。い。ま。り。ふ
や。前。後。も。ま。す。お。り。し。れ。お。軍。起。あ。が。り。わ。い。く。ま



乃ち一々ぬちあつてづつひもんた何もかへんべ天井の方を
 かんぬ人の鴨居のぶら老翁一人杖おすまがりてさすせり
 其のさけハ九寸ばかり。容貌もかへんご轂と申さるる後
 ひげ皆志ろくおひさぐれり。お軍すらへも驚きさつりす。
 いふ老翁誰人あやうづれのおし侍人哉。それお何れ哉
 ありて無きべ報いさふいづりとのさうも老翁お杖を
 ついてさつり杖をすて無お。そのをといひば候
 をあぐほちりや。ありて立あがり打作をて御殿
 を指さ。又伏しうぶいてお軍の脚を指さ。その後
 忽ちとて消えさつりお軍もすくあやう。これ後
 乃不為とも志まじ。お聖日名を。漢陽の定法を。あて回

ひも。定法志らうと。勲弁。く。の老翁。こ。こ
 樹木の精靈あり。その心を藻といひ。友の山林の中
 小橋と名を。石の下。お隠る。さ。お軍。頭。年。頻。う。お
 ま。殿。を。法。ら。り。お。を。ひ。く。さ。樹。木。を。ま。ま。り。お。人。老。翁。の
 御家を。あ。い。依。り。お。か。ま。り。ありて。御。前。お。あ。り。り。の。家
 乃。歌。さ。び。う。ら。な。り。打。作。で。御。殿。を。指。さ。た。ら。お。軍
 の。廣。く。お。殿。を。作。り。樹。木。を。裁。ひ。お。を。指。さ。て。あり。の。さ。伏
 一。う。ぬ。いて。お。軍。の。脚。を。指。さ。さ。ら。の。脚。を。さ。ら。是。の。字
 乃。志。ろ。く。お。軍。お。是。り。を。知。り。ゆ。へ。と。あり。さ。と。ぐ。ん。の。貴
 殿。か。さ。ら。は。是。も。を。知。り。た。げ。と。れ。佛。教。も。せ。思。ふ
 と。知。り。人。の。地。ら。お。臥。せ。と。も。あ。あ。り。是。と。を。さ。ら

老人の老いたるをいひていへば〜と云うも、老はるる身を
知り老の富りと〜なり。將軍がもろい足下、我知りのい
りりたる殿造、管の事におが〜りぬ、怒りべり〜を
りの理、統領より述べりたるは、將軍深く信置〜すいふ
く造りありりなり。又信人、お禁〜めて、あゝ小山、林に入り
あり、竹木を伐下〜さう〜し、後ろき〜し、空を造り、ふ
事ありりは、いさ〜も。皆信め、あ〜て、花葉あり〜ん、志ろ〜と、常
足事〜と、いづげ、これ、あ〜自頼、を出て、掛のい、ゆ〜くの老、お
が教を信〜し、ものり。かくて、成年の、な、お軍、衣、笠、山の禁、系
此、慥と、いふ、あ〜あ〜て、信者、将〜し、河の、白、鳥、追ひ、は、つ〜く、あ、さ、す
ふ、ふ〜り、ぬ、ふ〜、こ、に、向、ぬ、い、ま、は、出、林、の中、お、音、系、の、ま、り、す

ふ、ゆ、の、り、ぬ、軍、あ、や〜し、い、ち、お、つ、く、え、た、ら、ぬ、り、ぬ、い、ぬ、の、平、林、の、平
お、惟、鼻、を、お、り、い、是、を、ぬ、ろ、の、老、お、ぬ、り、の、お、年、つ、く、い、男、女
お、十、人、皆、銀、衣、を、着、き、帯、を、し、志、が、い、ひ、こ、れ、を、あ、
〜。さ、も、こ、ろ、か、や、う、ふ、う、り、り、ひ、て、立、た、う、へ、り、あ、う、ま、は、な、を、地
の、身、の、つ、け、皆、八、九、寸、お、い、る、さ、り、り、り、り、あ、く、お、連、い、ぬ、お、軍
を、と、ら、ぬ、も、の、い、ぢ、あ、い、ま、り、が、や、ま、い、う、〜、づ、ま、り、り、の、老、お、ぬ、す
〜、あ、〜、平、伏、し、〜、前、年、お、威、光、を、ま、さ、ら、う、〜、す、推、来、し、
お、折、し、〜、せ、し、お、ま、ぬ、軍、に、他、の、學、藝、を、兼、り、岸、所、〜、弁
作、を、是、ぬ、樹、木、を、斬、り、し、い、林、〜、ト、ま、ふ、の、ゆ、お、し、ふ、が、お、軍
か、ぐ、安、徳、し、〜、り、の、喜、び、〜、ほ、〜、づ、ま、ら、う、〜、ぬ、ま、ら、う、を、造
ゆ、を、り、り、の、お、謝、し、ゆ、り、と、い、ふ、す、お、ら、ら、ら、山、林、の、瑞、音、を、と



又...
 秋の...
 白うり...
 又...
 秋の...
 又...

白うり...
 又...
 秋の...
 又...

白うり...

又...

しそきまよりさゆいへんれびいとゆんでおはる女侍
の甘おせはうり。いよき後高位貴官は息女さうしんすし
面やせていとむらうけりけり。そ人の侍女よむらひい
くおと東の月一れつとすすもさりて面白りけれ。
さればうらびけりかきり世中ふ月のむむら
まぬうやまーあよといひりれ。二女さみせてはを
ども。ちもまのこつとかりと常あらず。中毎のさる
まはあま。浮世の中おどけりよま。れとらさきも
たぐい來れどもきくぬわきを月一せふあへん人のこを
けしずばささきさる。いさ海のこおふんてありび
とすむれが女侍おうふとて一首を添ぐり

野のこりせのうきさき川風

ささのし野のこりせのうきさき川風
又野はよーをかんて。まやあまらむら恋風のま
まありいたまーいさうして。あへんむらうきさうり
の侍女の袖をひく。これのあゆまおめてはが。あま
の法方のゆんどもあへんけり。ろまに感。身の前で
まのまをれてまもまうけり。ちよあまらいつれのさ
の法方さ。かく東よりりて。みかあまの屋まのいさ
あやーまよとつだ。女侍まやま一つけむらして。あ
おのゆへんあが共とのあま。あまの法さうのよ。あ
かきりあへんむらうけり。あまのいさまらうけてま



とてあやしく地しゆわとわがも。何うなるか。あつては
まづかどあふづらさせんとあまは。又足郎かきく辞
りれども。毎こしゆわいひかをよびはさふは。はく
ふふ二番とせし小娘。どられた。女席と二女をわくむ
感心しゆわい。かちやささきく。これなれ。いざこころ
たあく人のかたりまきとあるよ。わがすい。室よありぬ
これより。福をくすといざあひぬ。又足郎おられお
かきとあひ大炊川より。み町だより。赤山の方よ。の
とらう小憩門。あや。小門より。入る。竹の編戸をひく
内のでいこより。あひぬ。ぬぐも。高干。奇。舞。よそ
づけ。前。裁。裁。裁。裁。すき。ぬぐの。秋。ま。あ。た。た。は

まふ。笑。ま。ご。ん。の。お。く。素。匠。と。わ。が。り。と。て。酒。衣。ま。さ。の。の。お
か。り。ば。琴。琴。理。世。あり。え。香。炉。小。の。火。た。り。て。あ。ひ
と。ふ。か。の。う。た。り。女。席。又。足。郎。を。よ。び。た。と。二。女。小
お。や。せ。て。飯。を。く。の。人。酒。肴。か。ず。く。と。ら。お。と。て。あ
り。の。の。味。ま。さ。と。あ。て。て。あ。ひ。て。い。ま。ご。の。名。を。ご。り
あ。い。づ。れ。ご。も。い。さ。く。と。あ。ひ。た。だ。い。な。り。り。又。曲
席。こ。の。あ。い。さ。り。あ。り。あ。ひ。あ。や。あ。い。さ。の。縁。あ。い。あ。ひ。ぬ。り
あ。か。い。ま。れ。な。り。あ。や。あ。い。さ。の。後。あ。い。さ。は。あ。ひ。あ。ひ。ぬ。り
あ。い。さ。の。あ。い。さ。と。い。ち。り。と。あ。の。び。う。あ。い。さ。あ。い。さ
あ。り。あ。い。さ。あ。い。さ。と。あ。い。さ。の。秋。の。葉。よ
月。より。あ。い。さ。あ。い。さ。あ。い。さ。あ。い。さ

そく女部のふびんありあうたしよめれは女部
すうしあしういて

そふのえを月しはかて葉の戸部

せりまれ初んらととま

少し海しりまは。又女部いあくとくうのてそくわて
ひまれば女部まうとふえまりあふとて一なる
あふのさむひまら。又女部入りてかれば。こもまはま
いあくとけ女部のつひふあまらあふもかん也。麻上宮季
のうとあり。まうとくくくんとあふありあふ

妻

まきかーとやおゆらら山も乃やうあて

まのうへまきやまのうへ

友

かののらまみるぐうらあもたうて

友乃ーまあーあのみの中

秋

ひうかろーあのみよかのふと秋の丸

おゆくのらーなうまら

冬

ふくれああるあもあめあま

あふまといのこらをら

如部あといこらうらうら四季を海どんあか

空のありだらぬありなまきふありずらたしつられば
又空即志どくありく泳かかぬ

春

極をきく人のこころを来りけて
ちりぬらの花をいれみき

夏

足利の心ちをきけつこ急
よりのとやりのあつきけり

秋

月うつりぬりきの雲は夕うけふ
程久ありまの白きつこのま

冬

ちりまうふ木は葉よりりる葉の戸の
時白の乃ちを程くくるゆり
如師は依形通して。まのまのこにちんあをくらぬ
たりのそてあく感。いづいづ門もぐらぎりま。
束もあげがこまふれが。又空即起きて。もほせはんはらび
あまあしんして。いづきいづ海にひりり。如師なごる
そげふ籬のおもておくりて。これいづあふまの
かかんともんあんと。水精よれのあつきこり。程際
あひしとちりをあらへ。ちりまのりよかあるすありあ
あそ。まごうすくまごの別まあたり。げれらる家しゆ

てもなほ怪然として物をかみんどもうらうらうとありしを
しりしが。後ふい何とも志まぬ病室とぬり。あざとこれ
の女帝の事乃といひ。車い受りて。この女帝とさういふ
方をよかん増着してかたりあぐさむちりとして。そのまご
もかきつゝぬえんもやんせり。又女帝が父あまあま
こたげきそ。ある時女帝をつぎあひらんらがつ女帝
の指もよあつきりべし。よきふらうしおぬふな一侍
もすべし。せすしきれ。又女帝よりこひさうげ
ある人こそ。まごの縁家の方極たどり。おたけ寺の門
をのぢき。はとよりあつとひ。父つぶりしとひなうら
まのつきりえくよしく。たつとひんらり。大したなる

夢唐のころふふるも。醒屋あり。又女帝とさういふ
りしとて。一が家。姑門よりあつとひ。なり。これ
はいつあり。まもやとして。醒屋の由をのちきかたれ。ち
やうりふらうつとりて。相くぶき。増くられて。まごに
篇のすまうとあかりの女帝。同じ。二女は本像あり。
むりし。まごも義。兼ふ。莊嚴寺とて。かんへし。かけ
換して。あつ彩色をげ。あつびり。志くとり。の形
の彩珠の身をそふかれ。ち痕あり。又女帝とさういふ
きおひれ。まごのこの本像の好け。つりふ。これと。色を
うらまひ。魚とめて。いれき。まごのひ。ち傷う。まご
まかり。この妖怪あり。とら。つて。人なれ。まご。寺。僧。願と

ひびめて。これあるへき事とあり。は。み。ほ。を。い。振。度。居。の。内。め。て。三。階。堂。お。相。入。道。道。慈。の。一。家。代。と。の。墓。石。あり。お。の。女。命。の。本。像。の。道。慈。の。孫。女。少。童。姫。と。い。ひ。一。宮。親。母。兼。ち。り。ぐ。十。七。の。年。時。寝。と。や。り。と。死。し。ゆ。ふ。二人の侍女と年ごろなりとくありつりられ。此。病。中。ふ。い。し。と。さ。う。ん。と。は。く。し。と。さ。り。り。り。が。女。命。り。と。れ。め。い。て。より。な。げ。き。と。ま。づ。と。ほ。く。し。り。り。と。と。と。ふ。何。時。殺。し。あ。つ。て。お。つ。て。死。し。ゆ。き。り。を。一。所。お。本。像。さ。つ。り。り。の。ほ。を。の。内。す。へ。と。な。り。り。と。字。傳。へ。ら。さ。え。ハ。か。の。二人の侍女と後にも。主。従。の。り。見。込。早。れ。は。依。あ。い。り。ひ。と。と。え。は。久。し。も。る。孫。傳。れ。事。よ。う。て。時。

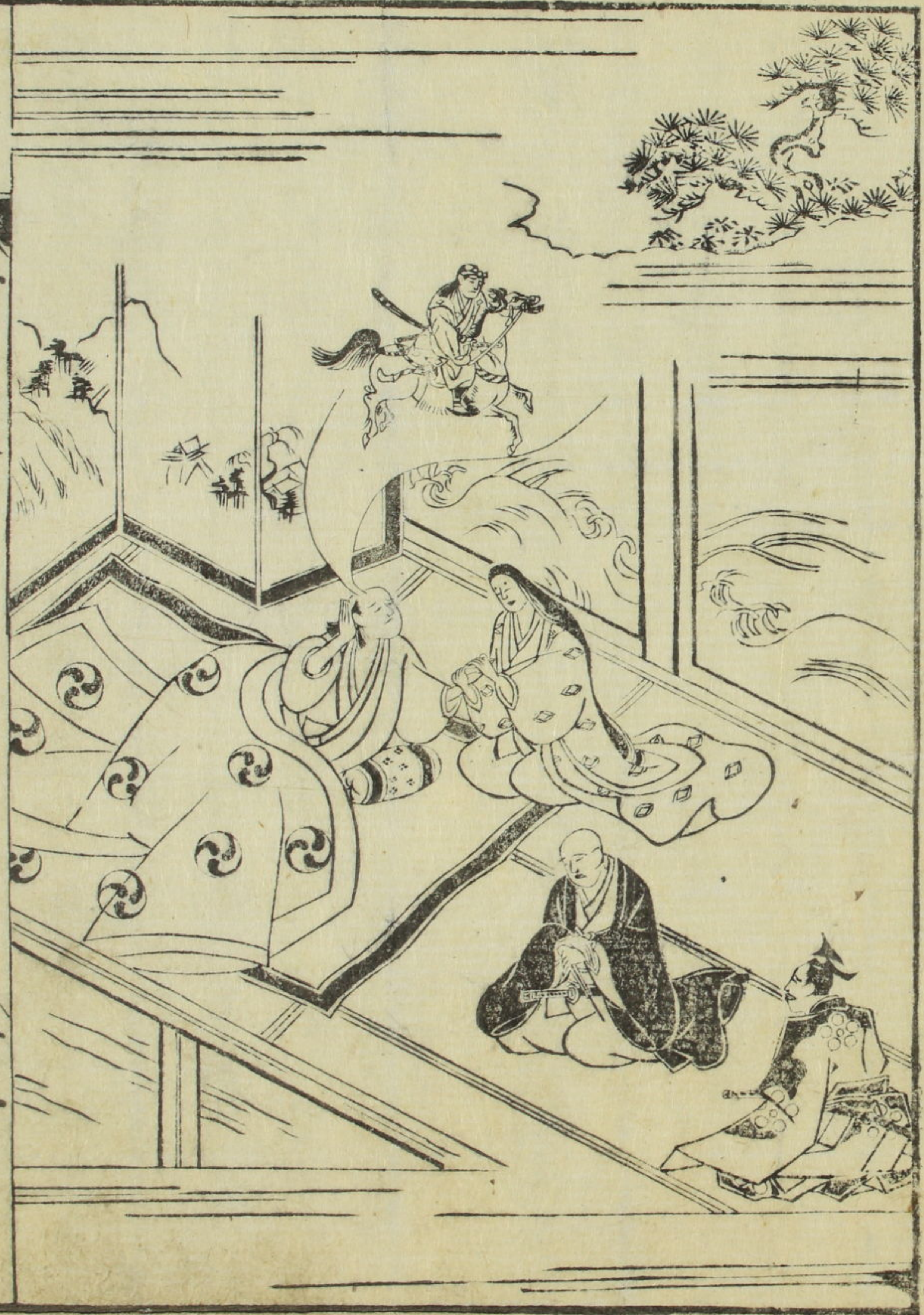
あり代りりりて。此の墓石を退轉して墓のまじりて。と。か。も。奴。怪。あり。し。と。ん。も。い。て。お。の。の。後。御。た。き。や。り。め。を。り。り。り。ん。と。と。の。の。三。の。の。本。像。を。再。い。莊。嚴。し。一。能。危。状。は。り。あ。重。せ。う。だ。これより又。三。命。之。病。と。も。年。腹。して。何。の。さ。り。り。と。ち。り。り。り。り。の。の。招。唐。を。居。と。解。を。せ。り。の。ち。ら。ま。と。く。纏。よ。綴。亡。び。て。い。い。年。と。あ。い。と。な。さ。い。う。あ。し。す。と。と。や。

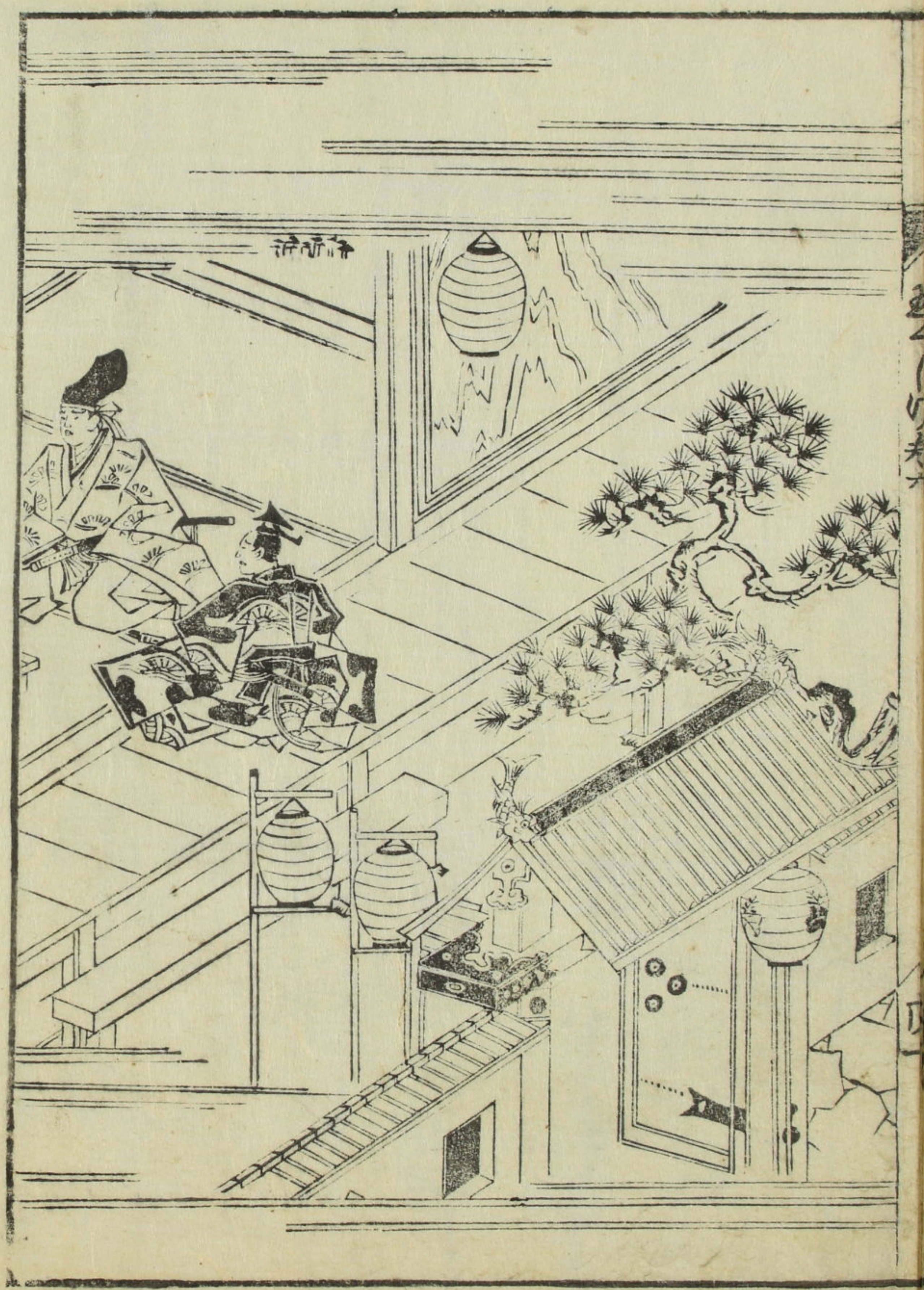
○ 屠牛此の意

山中麻分幸登何州東の地城に揃籠り一以吉川河部中
元長三万餘騎を引率し推せり時吉川が軍中
今田源右衛門といふ者あり法軍の討おさかりてす
ある山陰の志げさし志ざりしを志すとい居りある
西一人の牛馬をきり屠り男あり女牛を足を川
きり。このふめて屠りころむとある。女の牛牛小澤
物て擧ぎを志ささぐいきり物就をのし居り。源右衛門
はぐりんていれぼの男きりべきかたつて。すげふ
きんささし。ぐふささし。ふりて志ざり。用事
このへりり。このひまにこの擧が。このかの日をさ



西郷町のいんの綱永禄年中一云佐國孝と云ふ人あり
 久しく禁中ふまづくを控務ありしがいつとある病
 み漸く漸くおつりつりければいと命を乞く引退き家
 の前より病体さうあらずたゞあけられれば
 しておつとれし。そのころさうりつては
 それさうぐむ。本年さうりれば
 ぞとさうり。まがらし。のどく
 啼てわぐ頭上をけきり。忽ち
 陰うら。のあ入し。のやうさうぐ
 一のいふまき。さう。さう。おて
 してのいふ。か。り。り。か。く。す。り。半。





世間人の俗に入てきれば才の人の宿位までもに
^{ちやうど}あつて其の心^{れん}廉直忠孝あり。才二府の人はを
家^{せん}親徳のちよきくたれども。一生^ま三^ま足の類肉食^くでう人
たり。そのやう意^い慾^い心^んありて殺生^{ころ}のまぬ。又いその
と^く学^く智^ち文^ん材^{ざい}のたれども。天性^{てんせい}のすかかめして仁^に義^ぎ正^{せい}
く^く朋^{ほう}友^{ゆう}のたれありて。その^{けい}誼^ぎ及^くて^く学^く同^{どう}利^り己^このく不^ふ
まされん。これ等の^{けい}徳^{とく}は^はれ^はた^たす^すく^くら^らづ^づも^も俗^{じやく}
す^すま^まの^のた^たび^びと^とか^かる^る。か^かく^くて^て時^じ刻^くら^らり^りたり^りか^から^らず^ずも^も俗^{じやく}
ら^ら空^{くう}中^{ちゆう}より^りの^の俗^{じやく}の^の念^{ねん}を^をと^とび^びて^てい^いふ^ふも^もく^くい^いか
ぬ^ぬ。時^じに^にたり^りお^おも^もや^やゆ^ゆり^りの^のま^まべ^べと^とい^いふ^ふの^の俗^{じやく}を^をか^かさ^さ
お^おり^りれ^れら^らて^てい^いめて^て。ち^ちら^らと^とい^いふ^ふて^てま^まり^りれ^れば^ば。その^の中^{ちゆう}の

ふ^ふて^て所^{しよ}が^がす^すま^まく^くあ^あら^らう^うれ^れ皆^{みな}く^くた^たり^りか^から^らず^ずも^も俗^{じやく}の
と^とり^りと^と何^{なに}も^もあ^あれ^れば^ばか^から^らず^ずも^も俗^{じやく}の^のま^まり^りあ^あら^らず^ずも^も俗^{じやく}の^の敵^{てき}
が^がさ^さら^らに^に此^{こゝ}の^のび^びの^の者^{もの}ら^らさ^さま^まく^くい^いふ^ふま^まり^りあ^あら^らず^ずも^も俗^{じやく}の^の敵^{てき}
お^おら^らら^らせ^せとい^いひ^ひし^しめ^めき^きり^りれ^れい^いふ^ふて^て所^{しよ}ち^ちよ^よか^から^らず^ずも^も俗^{じやく}の^の敵^{てき}
た^たが^がし^し。さ^さり^りと^とい^いふ^ふま^まり^りあ^あら^らず^ずも^も俗^{じやく}の^の敵^{てき}か^から^らず^ずも^も俗^{じやく}の^の敵^{てき}
の^の百^{ひゃく}姓^{せい}を^をら^らが^が。其^{その}俗^{じやく}の^のま^まり^りあ^あら^らず^ずも^も俗^{じやく}の^の敵^{てき}の^のま^まり^りあ^あら^らず^ずも^も俗^{じやく}の^の敵^{てき}
ま^まり^りと^とい^いふ^ふま^まり^りあ^あら^らず^ずも^も俗^{じやく}の^の敵^{てき}の^のま^まり^りあ^あら^らず^ずも^も俗^{じやく}の^の敵^{てき}
ふ^ふん^んを^をは^はら^らう^うし^した^たし^し。ま^まり^りと^とい^いふ^ふま^まり^りあ^あら^らず^ずも^も俗^{じやく}の^の敵^{てき}の^のま^まり^りあ^あら^らず^ずも^も俗^{じやく}の^の敵^{てき}
か^から^らず^ずも^も俗^{じやく}の^の敵^{てき}の^のま^まり^りあ^あら^らず^ずも^も俗^{じやく}の^の敵^{てき}の^のま^まり^りあ^あら^らず^ずも^も俗^{じやく}の^の敵^{てき}
め^めて^て敵^{てき}の^のま^まり^りあ^あら^らず^ずも^も俗^{じやく}の^の敵^{てき}の^のま^まり^りあ^あら^らず^ずも^も俗^{じやく}の^の敵^{てき}の^のま^まり^りあ^あら^らず^ずも^も俗^{じやく}の^の敵^{てき}
所^{しよ}が^がま^まり^りあ^あら^らず^ずも^も俗^{じやく}の^の敵^{てき}の^のま^まり^りあ^あら^らず^ずも^も俗^{じやく}の^の敵^{てき}の^のま^まり^りあ^あら^らず^ずも^も俗^{じやく}の^の敵^{てき}

初く清谷を越えはよひつら。海をまわつてつねに
 しのほき清が家の門をさへく。家へおて誰人とも
 ば。いのほきおちる。つらふ見つれたりや。すぐは刑
 罰せられんとせし。が。ちかたの人のせきけり。よ。余
 だす。り。海り。あれり。と。そのまふり。まひ。と。む。つ。ま。い。ち。り
 だ。ほ。き。お。ち。て。う。か。う。さ。ら。い。あ。さ。ま。し。き。お。ち。り。ら。り。一
 家。妻。子。の。と。も。ぐ。あ。ま。れ。て。し。れ。い。つ。ら。り。あ。や。あ。や。と
 ち。や。し。む。あ。よ。あ。あ。よ。り。海。り。あ。ら。ん。あ。り。い。ち。き。お
 ち。れ。ら。れ。り。お。ほ。き。お。ち。ま。さ。し。く。刑。罰。は。あ。い。お。ち。り
 とも。ら。れ。ら。り。と。い。ふ。い。ち。き。お。ち。り。と。い。ふ。を。ち。り。人
 を。さ。し。ら。ん。と。が。む。ら。に。す。ぐ。て。一。家。の。中。者。より。あ



可なり。大い事。そのなりはん。社書子の小名。あてつ。あさ
 まひて。いふ。ちんぢら。まれ。久。く。意。致。あり。
 内。わ。う。よ。ん。わ。す。れ。て。い。づ。う。い。何。事。だ。や。た。づ。一。家
 の。あ。さ。ど。う。り。ま。れ。を。な。ま。ま。あ。て。て。あ。ひ。う。ち。あ。ひ
 ちんぢら。ま。が。ま。に。何。も。さ。う。ん。と。や。は。く。ま。ま。と。と。か。れ
 び。ち。り。と。と。大。ち。り。極。を。お。書。子。を。た。く。ま。せ。ん。そ。う
 くれ。び。一。家。い。う。ん。と。と。ま。き。や。う。な。く。あ。の。書。い。の。友。だ
 き。り。て。あ。さ。う。ら。り。の。お。あ。さ。く。お。り。う。一。が。う。て。
 家。話。あ。げ。お。ら。り。づ。く。よ。め。立。志。さ。ず。あ。さ。う。ん。さ。れ
 ば。この。科。人。刑。罰。の。ひ。れ。日。之。好。氏。及。途。を。さ。ま。と
 て。あ。さ。う。く。と。芝。原。院。致。を。結。一。な。り。事。あり。一。し。

下。風。逆。勢。は。ん。あ。て。て。く。意。致。候。を。う。ら。ま。の。群。
 長。あ。さ。う。て。止。陽。を。消。剥。す。り。の。時。あり。か。う。あ
 づ。く。も。妖。怪。と。あり。て。あ。の。兼。地。を。あ。さ。う。あ。さ。う。
 せ。い。ふ。

五ノノ巻六終

